

第26回政策評価に関する有識者会議議事要旨

1. 日時：
平成29年6月26日（月曜日）9：57～11：53
2. 場所：
中央合同庁舎第7号館13階 共用第1特別会議室
3. 議題：
平成28年度実績評価書（案）、金融庁における政策評価に関する基本計画（案）について
4. 議事内容：
この1年の取組みの成果と課題等について長官より説明。

会議中に委員より出された主な意見は以下のとおり。

- 金融システムの安定性を確保するためのリスクの把握のため、専門部署を設けてマクロ・プルーデンスの視点から様々な分析・検討を行っているが、具体的な体制整備の状況と認識している課題は何か。また、分析・検討にあたって、市場関係者及び日本銀行等との間で意見交換を行っているか。
- 特に、銀行APIのオープン化の進展等により、新しいFinTech業者が金融システムに参加する。FinTech業者を含めて、金融の規制や監督のあり方を考えていくことが課題。新しいIT技術に対応できる人材の育成、外部からの専門人材の採用も重要。
- 金融行政の方向性や課題等について、国際的な情報発信をタイムリーに行うことが極めて重要。これからも継続して取り組んでいただきたい。
- 金融庁の各施策の実効性が年々高まっており、政策立案、実行、評価、次の計画の策定へというPDCAサイクルがしっかりと回っていることを評価。
- 国際的な会計人材の育成に関して、財務会計基準機構が公表している「国際会計人材ネットワーク」の登録リストに学術研究機関が入っていない。国際的な場で意見発信できる人材プールの構築にあたっては、各分野・バックグラウンドから、バランスの良い人選が重要。
- 本年4月、監査監督機関国際フォーラム（IFIAR）の常設事務局が、東京に開設されたことに期待。今後、日本で国際会議が開催される事に伴い、世界の人材が日本を訪れ、様々な意見が発信される、日本にとって非常に重要な

こと。

- フォワード・ルッキングな政策により、（金融機関の）新規参入の促進及び非効率な金融業の退出といった新陳代謝を進めないとイノベーションは起こらない。しかし、現実には地元の理解を得る事等、様々な問題がある。どうすれば新陳代謝が促されるか、一緒に考えていきたい。
- これまで預貯金の割合が高かったのは、その収益率が、投信等他の金融商品と比べて相対的に高かったからではないか。今後、重要になることは、日本のアセットマネジメントの能力を高めていくこと。
- 金融庁は、最近多くの女性職員を採用しており、女性の活躍できる働き方改革を日本全国に発信し、進めてほしい。
- 金融システムの安定性が向上してきた中、金融機関の収益力低下が潜在的な脅威となっている。このような状況においては、真に必要な金融サービスの提供といった金融仲介機能の発揮状況を評価していくことが大事だと考える。
- 利用者の視点に立った金融サービスの質の向上について、金融庁と金融機関との対話の深化によって、金融システムの将来展望をどのように描くか、金融庁はどのように描かれているかということが重要であると思う。
- 新しい基本計画の考え方について、3つの基本政策は、金融システムの安定と金融仲介機能、利用者保護と利用者利便、市場の公正・透明性と活力といった形で、目標間の緊張が意識されているというのが新鮮。新しい基本計画のもとでの金融行政の展開に期待。

以上

お問い合わせ先

金融庁 Tel 03-3506-6000（代表）

総務企画局政策課

（内線 2770、3515）
